

- 暑熱対策について
- 暑い夏 屋根から始める 暑熱対策（事例紹介）
- 平成27年度 監視伝染病の発生状況
- ～馬飼養者の皆様へ～ロドコッカス・エクイ感染症の発生について

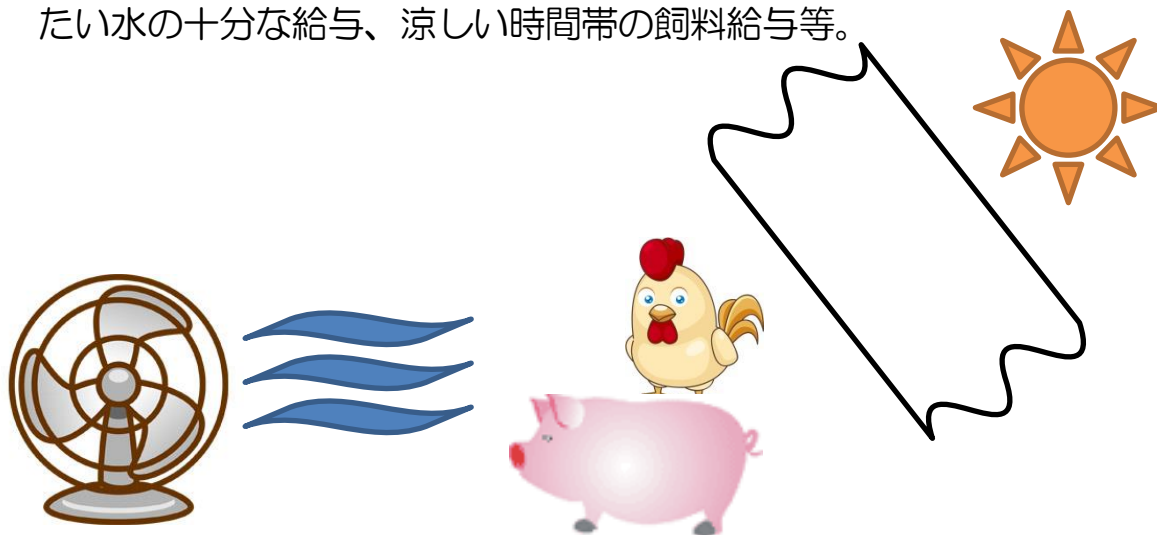
暑熱対策について

中小家畜課

年々、夏の暑さがとても厳しくなっています。気象庁の発表では、向こう3か月の気温は、平年並みか高い見込みとなっており、今年の夏も暑くなりそうです。家畜にとって厳しい季節となることが予想されますので、家畜の生産性を維持するため、家畜が健康で快適に過ごせる環境作りに努めましょう。

【暑熱対策のポイント】

- 畜舎外から畜舎温度を下げる！
スプリンクラー等による屋根への散水、畜舎周辺への散水、屋根等への消石灰塗布、寒冷紗の設置による日除け。
- 畜舎内設備で畜舎温度を下げる！
換気扇・扇風機等による送風、換気扇の増設、細霧装置の稼働。（機械類は必ず動作確認を！）
- 家畜の健康状態を良好に保つ適切な飼養管理！
良質な飼料とミネラルの給与、適切な飼養密度での管理、新鮮で冷たい水の十分な給与、涼しい時間帯の飼料給与等。





暑い夏 屋根から始める 暑熱対策（事例紹介）

いよいよ夏本番です。畜舎の暑熱対策を実施し、家畜とともに暑い夏を乗り切りましょう！

暑熱対策は、送風機による送風、牛舎周囲のグリーンカーテンや寒冷紗の設置が一般的です。それに加え、畜舎を温める最大の熱源である太陽光を遮るため、畜舎の屋根を白く塗ることで、効果的に畜舎内の温度上昇を防ぐことが可能です。

今回は県内で実施された2事例（農業改良普及センター調べ）を紹介します。

事例1：ペンキ塗装

施工は、洗浄、錆止め、ウレタン塗装（吹付け、白色のため2回塗り）の全行程で約1,000円/m²の経費がかかりました。

牛舎屋根が500m²のとき、1,000円/m²で50万円かかりますが、耐用年数を8年とすると、年間あたり62,500円の経費です。

畜舎の屋根の塗替えを検討している場合は、白色ペンキを採用すると、効果的な暑熱対策を取ることができます。



白色ペンキ塗装した畜舎の屋根

事例2：石灰塗布

屋根に石灰を塗布することで、白色ペンキ塗装と同程度の効果が得られます。

ドロマイト石灰を適正濃度で希釈し、動力噴霧器で屋根に塗布すると、1袋20kgで約36m²塗布できました。価格は1,400円/袋です。

牛舎屋根が500m²のとき、39円/m²で19,500円程度と低コストですが、半年くらいで剥がれ落ちるので、毎年塗布する必要があります。また、自力施工なので高所作業は十分安全性を確保することが必要です。屋根の傾斜がきつい場合は、無理せず業者に依頼しましょう。

表：屋根を石灰塗布した牛舎内温度と外気温の比較

	外気温	繁殖牛舎	肥育牛舎
平均	29.2℃	25.8℃(-3.4℃)	26.5℃(-2.7℃)
最大	33.0℃	27.8℃(-5.2℃)	28.5℃(-4.5℃)



石灰の塗装風景

平成 27 年度 監視伝染病の発生状況

大家畜課 病性鑑定担当

1 家畜伝染病

病名	畜種	市町村	発生戸数		頭羽群数	
			累計		累計	
ヨーネ病	牛	1(管内)	2		2	

2 届出伝染病

病名	畜種	市町村数 (県内)	戸数		頭羽数	
			県内	管内	県内	管内
牛ウイルス性下痢・粘膜病	牛	4	4	1	5	2
牛丘疹性口炎	牛	1	1	0	4	0
牛白血病	牛	22	120	41	130	41
牛サルモネラ症	牛	1	2	2	8	8
破傷風	牛	1	1	0	1	0
豚流行性下痢	豚	1	1	0	331	0
豚丹毒	豚	1	3	0	3	0
豚サルモネラ症	豚	1	1	0	12	0
伝染性気管支炎	鶏	4	5	0	4,554	0
鶏白血病	鶏	1	1	0	1	0
マレック病	鶏	1	1	0	6	0

監視伝染病の発生状況は、岩手県のホームページ(HP)で公表しています。県公式 HP から「家畜伝染病の発生及び届出伝染病の届出状況」と入力して検索してください。

<http://www.pref.iwate.jp/>



3 特記事項

- (1) **ヨーネ病**は管内で**2戸2頭**の発生がありました。患畜2頭は、生後間もなく県外の預託育成牧場で飼養され、帰着した際の導入検査において、糞便からヨーネ菌遺伝子が検出されたため、本病と診断されました。いずれも本病に特徴的な下痢及び消瘦は認められませんでした。農場への本病の侵入防止のため県外から導入(帰着)した牛はヨーネ病検査(無料)を行いましょう。
- (2) **牛ウイルス性下痢・粘膜病**の持続感染牛は、管内で**1戸2頭**摘発されました。発生農場は、新たに持続感染牛が産出される可能性があるため、平成28年度は、発生農場で出生した子牛の検査を実施しています。
- (3) **牛白血病**は**37頭**の発生がありました。管内農場から出荷され、と畜場で摘発された牛を含めると**71頭**の発生頭数となります。昨年度と比較して、発生頭数は31頭減少しましたが、依然として、発生頭数は多い状況です。当所では、感染防止対策を実施する発生農場及び公共牧場等の取組みを支援しています。
- (4) **牛サルモネラ症**は、管内で**2戸8頭**の発生がありました。発病牛の有効薬剤による治療及び牛舎の衛生管理の徹底により、いずれの農場も清浄化されました。本病の予防のため、飼養衛生管理の徹底が重要です。また、異状を示した牛(発熱、下痢、脱水など)は、速やかにサルモネラ検査を行いましょう。
- (5) **豚流行性下痢(PED)**は管外で**2戸331頭**の発生がありました。感染哺乳豚は、水様性下痢を呈し高率に死亡します。平成26年度とに比較して、発生は落ち着いたものの、まだまだ予断は禁物です。今後も農場における衛生管理の徹底、関連施設(と畜場、化製場、共同堆肥施設等)を介した本病のまん延防止策の継続が大切です。

～馬飼養者の皆様へ～

ロドコッカス・エクイ感染症の発生について

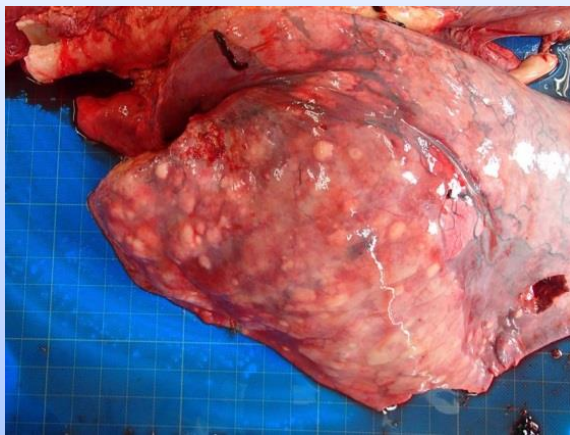
大家畜課 病性鑑定担当

今年5月、管内の一馬飼養農場でロドコッカス・エクイ感染症が発生しました。本症は、発熱及び肺炎症状を主症状とし、時に異臭を伴う下痢を伴います。慢性例では関節炎を呈します。本症は発見が遅れると治癒しにくく、さらに、排出された病原体によって、環境汚染が拡大する危険性があるため、発症馬の早期発見、早期治療が重要です。

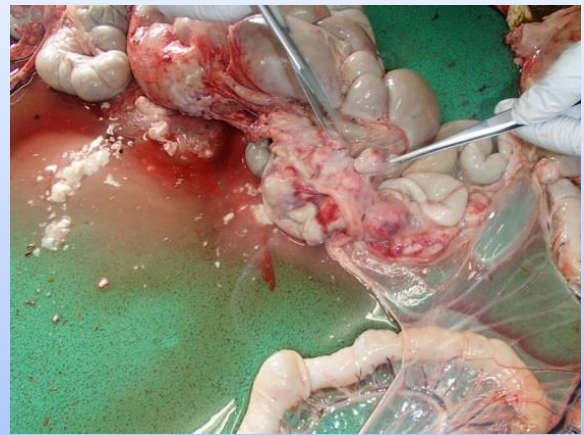
1 概要

2か月齢の子馬1頭が肺炎症状を呈し、抗生剤による治療を行うも翌日に死亡したため、当所にて病性鑑定を実施しました。

剖検所見では、肺の肝変化及び拇指頭大から鶏卵大の膿瘍が多発し、チーズ様物が貯留していました。また、腸間膜リンパ節が腫大し、内腔にチーズ様物を貯留していました。



肺に拇指頭大から鶏卵大の膿瘍が多発



腸間膜リンパ節の腫大及びチーズ様貯留物

病変部及び気管洗浄液から病原性プラスミドを保有する *Rhodococcus equi* (*R. equi*) が分離され、ロドコッカス・エクイ感染症と診断しました。

2 症状

主に3か月齢以下の子馬で肺炎又は腸炎を発症します。慢性例では、関節炎が見られることがあります。

3 病原体

原因菌は、病原性プラスミドを保有する *R. equi* (強毒株) です。本菌は土壤中に常在しますが、そのほとんどは病原性プラスミドを保有せず非病原性です。主に馬の移動とともに伝播します。

4 治療

発症後に時間が経過した個体では、肺に膿瘍が形成されるため、抗生剤による治療効果が得られにくくなります。発症馬が確認された農場では、感受性の高い45日齢くらいまで毎日検温し、発熱が認められた場合にはゲンタマイシン、セファロチン等による速やかな治療が必要です。

〒023-0003 岩手県奥州市水沢区佐倉河字東館 41-1

岩手県南家畜保健衛生所

TEL 0197-23-3531

FAX 0197-23-3593

岩手県南家畜衛生推進協議会

TEL 0197-24-5532

FAX 0197-23-6988

